

## 三浦市立旭小学校

研究テーマ：すすんでかかわり、高め合う子 ～子どもたちが夢中になる単元づくりを通して～

### 1、実践の目的

昨年度の研究の振り返りと共に、学校教育目標についても、児童の実態把握を含めた振り返りをし、目指す児童の姿について共通理解を図った。その結果、「高め合う力」「自律する力」「行動力」という3つの力が、今の旭小学校の児童に身につけてほしい力であると考えた。

そこで今年度からは、「すすんでかかわり、高め合う子 ～子どもたちが夢中になる単元づくりを通して～」というテーマのもと、「生活科」と「総合的な学習の時間」で研究を進めていこうと考えた。研究テーマを達成するために、①地域を活用すること②価値ある場の設定を手立てとして、校内研究を進めていくことにした。

### 2、実践の内容

#### (1) 校内研究の組織体制

低・中・高学年に分かれて指導案検討、授業研、事後検討を行い、校内研究を進めた。また、研究推進委員会を中心に、校内全体で「生活科」「総合的な学習の時間」の年間指導計画を共有するなど、教師の学びの場を設けた。

#### (2) 手立て①【地域を活用する】

地域を活用することで、児童が夢中になる学習につなげることができると考えた。夢中になるというのは、実体験できたり追究できたりするものだと考えられる。また、

児童の興味関心をより一層引き出すことができるだけでなく、繰り返し出向いて学ぶこともできるので、地域を活用することを手立ての一つとした。

#### (3) 手立て②【価値ある場の設定】

より主体的な学習にしていくために、対象と出会う場面、課題をつくる場面、課題を追究する場面、振り返る場面などをどのように設定していくかが重要であると考えた。どの場面で、どのように進めていくか、またその手立て（家の人に聞く、地域の人にインタビューする、集団で考える等の学び方）はどうするのかをよく考慮するなど、個人や集団で学ぶ場の工夫を考えることにした。

### 3、実践の成果

#### (1) 校内研究の組織体制

低・中・高学年で分けたことにより、少ない人数で検討ができ、相談しやすくなっただけでなく、それぞれの学年の授業に関わり続けることができた。また、低・中・高学年で分かれているからこそ、目指したい児童の姿がブシなかった。

#### (2) 手立て①【地域を活用する】

地域を活用したことで、学習の対象にすすんでかかわる姿が見られた。また、地域に出向いたり、地域の方と関わったりすることで、実際に見て感じて学ぶ学習ができただけでなく、地域で努力している方の存在、

そして自分たちの活動に協力してくれる地域のあたたかさに触れることができた。



＜2年生＞町探検で警察の方にお話を伺っている様子



＜6年生＞フードドライブで集まった食材を地域の福祉施設に寄付する様子

### （3）手立て②【価値ある場の設定】

児童が調べたことを共有する場面、同じ目標に向かって共同で活動する場面などは価値ある場として設定できた。しかし、何をもちて価値ある場とするのかがまだまだ曖昧であると感じた。授業者の共通確認が課題である。

## 4、今後の展開

来年度も引き続き、「生活科」と「総合的な学習の時間」で研究を進めていくようにする。組織体制も、今年度と同様で行うが、指導案検討や研究授業日は一覧表にして、

学年部以外の職員も積極的に参加できるようにしていきたい。

研究テーマを達成するための手立てに関しては、今一度考えていくようにする。今回お世話になった人とのつながりを大切にしていきたいが、それありきになってはならない。地域を活用することをゴールとするのではなく、あくまでも、地域を活用したことで研究テーマの達成につなげることができたという形をとるようにする。「～を達成したいから、～の力を付けたいから」という視点を明確にしていきたい。また、今年度は価値ある場を、「対象と出会う場面」「課題をつくる場面」「課題を追究する場面」「ふり返る場面」などとしていたので、あまり統一できていなく、何を研究しているかよく分からなくなってしまった。来年度は、場の設定を絞っていく方向で考えたい。そうすることで、職員の共通理解も図ることができ、研究の内容がもう少し明確になってくると考える。

目指す児童像、育てたい資質・能力についても児童の実態に合ったものとして考え直し、職員全体で共通理解を図っていくようにする。さらに、年間指導計画を立てるときは、生活科や総合と各教科のつながりを意図的・計画的に考え、児童の力をさまざまな場面で高めていけるようにしていきたい。これからも「すすんでかかわり、高め合う子」を目指し、職員全体で指導を行っていききたい。